

まいとするだけの見識や批判性を持っていいのではなからうか。

以上、言葉はととのわなかったけれども、実施する側は、いまだ、選ばれた特別の条件の者だけの児童集団を教育研究及び教育そのものの場とすることから生ずる、そこでの成果の適用範囲の限定化について反省し、それと共に、その際とられる入学試験の方法が父兄たちに、相変らずの主知主義的な人間価値観を助長する方向に効果的に働いてしまう、教育的影響について、再検討されることを切望して、筆を擱きたい。(青山学院大学文学部教授)

小学校の立場から

自由募集の小学校にはいるための
準備教育は子供のためになるか

武 田 一 郎

1 テストを行う自由募集の小学校

ここでいう自由募集の小学校とは、一般の公立小学校ではなく、

私立の小学校とか、国立大学の附属小学校のように、入学させる子供を募集して決める小学校のことである。多くの場合、これら自由募集小学校の志願者数が、入学させようと思う子供の数を超過するのである。そこで、何かの方法で、多数の志願者のなかから、一定数の子供を選抜しなければならないことになる。ところで選抜のしかたにはいろいろある。たとえば志願者の受付順で決めるとか、抽選で決めるとか、テストをして決めるといような方法がある。

一時に志願者が殺到することもなく、かつ、志願者の数もそんなに多くない学校なら、受付順による方法もよからう。しかし、願書の受付期間が十日も二十日も、ときにはそれ以上もあるのに、受付の第一目めに早朝から何百人もつめかけるところでは、とても受付順というわけにはいかない。そこで抽せんとか、何かのテストをしなければならぬということになる。国立大学の附属小学校のなかにも、抽せんだけで決めるところがある。しかし学校によっては、特別の研究のためとか、教生の実習に伴ういろいろな都合などから、テストを行って決める場合が多い。もっとも国立大学の附属小学校では、テストだけで決めないで、テストの前か後に、抽せんを行うところが多い。テストは、時に、頭よくない子供、つまり知能の低い子を選ぶために用いることもある。しかし多くは、知能の比較的高い者を選ぶのに用いられる。最初にテストをしてから抽せんをする方法と、その逆の方法とを比べると、前者のほうが、知能の高い子供のはいる可能性が多いことはいうまでもない。しか

し、選ぶ手数とか、テストを受ける子供やその親の立場を考えると、相当に問題がある。私どもの学校では、後者の方法を採用している。

2 テストの準備練習は役に立つか

このように、テストを行う自由募集校が多いところから、幼稚園でも、自由募集校を志願する子供のために、テストの準備練習を行うことができるように聞いている。このようなテストの準備練習は役にたつであろうか。特に親の身になって考えてみれば、テストがある以上、できるだけテストにパスするように準備練習をさせたいのは、一応、もっともなことである。だから、テストの準備練習がよいとかわるいとかからではなく、親の熱望もだしがたく、幼稚園の先生としても、何か準備になりそうなテスト練習をしないではおれないということが多いかもしれない。

一口にテストと言っても、体力テストもあれば性格テストもあり、また知能テストもある。このほかテストには、まだまだいろいろな種類がある。ところが、自由募集の小学校で行うテストの大部分は、知能テストに属するものが多いと言えよう。したがって幼稚園でも、知能テスト的な準備練習が多く行われるという結果になりやすい。

知能テストには、幾種類か標準化されたものがある。もともとこの標準知能検査というものは、それを練習させるという目的で作ら

れたものではない。生れつきの知能を知るためにできたものである。けれども、テストの準備教育ということになると、当然、この標準テストとか、それに類似したものを数多く練習させるということになる。

一度も知能テストを行ったことのない子供と、何度も練習した子供とでは、たとい生まれつきの知能が同じ程度でも、テストの結果が違ってくることは常識的にもうなすける。だからこそテストの練習をして、準備教育をするということになるのであろう。この点だけからいうと、テストの準備練習は、一般には、効果があると言わざるを得ない。

3 テストの準備練習が子供のためにならないことがある

たとえば標準知能テストに、ひしがたを書かせる問題がある。そこで準備練習をする時に、幼稚園の先生は、「四つの線が、同じ長さになるように書くんですよ。」とか、「向い合ったかどが、同じかところになるようにするんですよ。」などとやって、くり返し練習したとする。ところが不運にも、募集校のテストで、ひしがたに近いかっこうの四辺形で、線の長さとか、向い合った角度が多少違ったものが出たとする。そうすると、子供は先生にやかましく言われたとおり、つい、出された図形をよく見ないで、ふだんの練習どおりのひしがたを書くという結果になることがある。ひとり図形ばかりではない。「あなたの名前は何と言いますか。」と聞くのに対して、

待てましたとばかり、「○○区○○町○○番地○○○○子」などと、いろいろな分まで言うこともある。またこんなことは別に、ふだんあまりやかましく言われているために、かたくなり過ぎて、しぜんな発表ができないで失敗することもある。そればかりではない。幼稚園で知能テストの練習ばかりしているということになると、発育さかりのだじな時期に、かたよった教育になつて、一生とり返しつかないことにならぬともかぎらない。子供は、知的発達とともに、身体的にも、情緒的にも、社会的にも、道徳的、精神的にも、全体として調和のとれた成長発達をしなければならぬ。テスト練習ばかりでは、ほんとうの意味の知的発達さえも、望めないであらう。また知能のあまりよくない子が、幸?にも練習のおかげで自由募集校には入れたとする。ところが一年二年とたつうちに本来の地金が出て、クラスのもてあまされ子になる例も少なくない。これらはいずれも、テストの準備練習が、かえつて、子供のためにわるい結果となる場合である。

4 小学校の入学テストに失敗した子供を見放してはならない

右にも述べたように、自由募集校でのテストは、いろいろな関係から、しぜん知能テスト偏重にかたむきらいがある。しかも、きわめて短時間のテストであるから、知能のほんとうの力さえためしかねることがある。とくに頭がよく、緻密で用心深い子などは、テストで問うこと以上の深さで考え、じょうずにまとまつた表現をし

ようとするために時間をとり、わからないで黙っている子供と同じように評価されることもないとは言えない。ことにテストの問題自体が見当違いだつたりしたら、なおさら問題外である。

かりに数歩を譲つて、知能が低くて知能テストに失敗したとする。それでも、なおかつ、それによつて子供の一生の運不運を予断したりするなら、それこそとんでもないことである。さきにも述べたとおり、子供は知能だけで生活するのではなく、身体的、情緒的、社会的、道徳的、精神的な全体の発達による人格として生活し行動するのである。社会生活における成功不成功、幸不幸は、決して知能だけで決まるものではない。また、自由募集校にはいれないで、一般の公立学校にはいったことが幸になるか不幸になるかは、だれも予断しかねることである。だから、自由募集校の入学テストに失敗した子供に、決して絶望などすべきものではない。

5 幼稚園から自由募集校への望ましい進み方

理想を言えば、幼稚園では小学校入学のための特別な準備練習などしなくとも、平素の幼稚園のカリキュラムで、しぜんテストに應じ得る能力がつくように指導されることである。お話をするごと、絵本を見て発表すること、絵画製作をすること、簡易な数の唱え方などは、当然、幼稚園のカリキュラムや自由な生活のなかで養われるはずである。幼稚園は、決して曲げられた意味における小学校の入学準備機関ではない。他面、小学校でも適切なテストを用意

するようにながける必要がある。

(お茶の水大附属小学校長)

小学校入学時の 知能テストの扱い方

小 口 忠 彦

1

小学校入学を人生の門出とみなす傾こうは、最近になって、かなり訂正されてきました。それだけ、幼児教育の重要性がみとめられてきたことになるわけですから、至極けっこうなこと、これからもおしすすめなければならぬのはいうまでもありませんが、勢あまって、フロイドのように幼児期に必要以上の重みをかけることはさげなければがわいする、また、小学校入学という出来事に軽はずみの態度でのぞむとしたら、特に日本という社会では一言なかるべからずということになるでしょう。

どこかでこんな会話を耳にしたことはありませんか。

「こんど、おとなりの坊やは、附属小学校にお入りになったんですって。」とか、「うちではやっぱり附属に入れることにしたよ。」とか。

附属小学校へ入ったときには、附属幼稚園や附属中学校、さらに大学などへ入ったときよりも、一般の人々が関心をもってみつめていようです。こういう現象があらわれるのは、一つには、義務制という改まった組織のなかに、はじめて子どもを入れることだからではないでしょうか。

また、こういうことも原因しているかとおもいます。苦勞して育てた子どもが幼稚園にいられるようになって、「や」と大きくなつた」とおもう間もなく、こんどは小学校への入学です。親の苦勞も並大抵ではありません。そのために、小学校へ入学すると、「や」とこれで学校へ入った」という気持になるのではないのでしょうか。

これは、子どもを幼稚園から小学校へ入れた親の場合にも、また、直接小学校へ入れた親の場合にも共通の現象です。

また、子どもにとつても、小学校へ入学することは大変です。幼稚園を経て小学校へ入った子どもは、直接に小学校へ入った子どもよりも集団生活になれているわけですが、どちらもそれまでとはいちじるしくことなつた集団のなかでいろいろな規則に従わなければなりません。一方、教科の面では、算数・国語などをいやでも勉強しなければならなくなります。また、家庭では、「もう学校へ入っ